

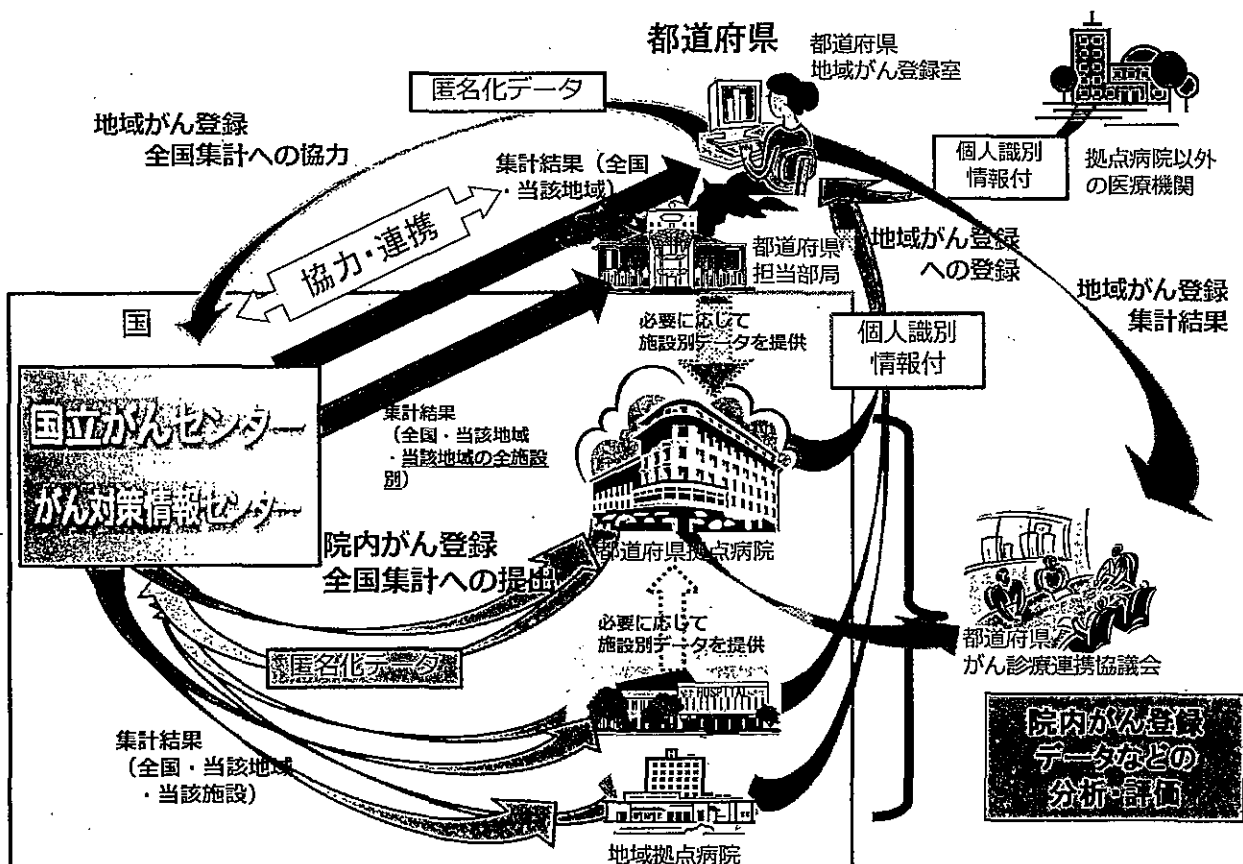
# がん診療連携拠点病院院内がん登録 全国集計報告書について

- がん診療連携拠点病院の院内がん登録のデータを初めて集計した
- 2007年1月1日～12月31日に拠点病院で、診断あるいは治療、または他施設で診断・治療後に、拠点病院を初診したケースを登録

305施設(353施設に依頼)の拠点病院より、327,889件を収集  
→がん罹患の約50%

※本報告書は  **ganjoho.jp**  
医療関係の方へ「統計」からダウンロードできます。

## 地域がん登録を含めた連携体制イメージ



## 今回の集計で見えてきたこと

- 拠点病院においても、胃・大腸・肺がんの登録件数が多い。
- 前立腺がんの登録件数が多い。(23,605例)  
=> 肝がん(16,782例)より多い
- がん検診等で発見された割合(検診+ドックで16.7%)などもより詳細な評価ができる可能性がでてきた。
- がんの種類とステージの組み合わせでの治療方法が改めて確認できた。
- 越境受診のパターンも見られ、都道府県毎の情報収集の方法の検討も必要であることを確認した。

## 拠点病院 院内がん登録の意義と展望

現在の院内がん登録の問題点や様々な状況に対する仮説が導かれた。



継続していくことで、問題点を改善したり、新しい課題を発見したりして、より正確で役に立つ情報を集めて公開していくことが可能となる。



1. 各がん種、進行度、その治療の分布を把握し、国や都道府県のがん対策に役立てる。
2. 各施設が全国と比較した自施設のがん診療状況を把握し、がん診療の方向性等を検討する。

今後は、施設別データの公表を検討

2011年に予後調査を実施し、3年生存率を算出予定